※評価基準　A：達成できた　B：ほぼ達成できた　C：あまり達成できなかった　D：達成できなかった

	重点目標	具体的方策	評価	成果（○）と課題（●）
小中学部	① 安心・安全な教育環境の整備を行い　児童生徒が安心して学べる環境づくりに対する職員の意識向上に努める。	① 教室等の整理整頓及び児童生徒の行動から想定した安全点検に努め、事故を未然に防ぐ。危険箇所は速やかに修繕及び修理を行う。 医療的ケア内容及び危機管理についてマニュアルを熟知し、緊急時に対応できるようにする。 ヒヤリハット及び事故の発生時案について、速やかに情報の共有、再発防止策の共通理解を行う。	A	● 毎月１日を安全点検の日に設定して、各担当者が教室等の危険箇所及び破損の状況を調査・報告している。大雨になると、多目的教室の裏手の方面から土の塊が落ちてくる。管理者の盈科小学校には報告を行っている。 ○ 壱岐市外での学習活動におけるマニュアルに課題があったので、現在改善に取り組んでいる。 ○ 医療的ケア看護職員が適切な医療的ケアを行うことができている。 ○ ヒヤリハット報告書をファイリングし、情報を蓄積することができている。
	② 学習指導要領に基づき、児童生徒の実態に応じた充実した学習を実践し、学力の定着を図る。	② 学習指導要領の目標の達成に必要な教材準備や手立ての工夫に努め授業を展開する。 単元計画・評価シートを活用した授業計画や単元の評価を行い、職員間の情報の共有を行う。 実施した単元の評価に基づき、次年度の教育課程及び年間指導計画の編成を行う。	A	○ 教材など、共有サーバのフォルダで保管し、次年度以降も活用できるように引き継いでいる。 ○ 特に生活単元学習では、単元評価シートを活用し、学習指導要領の目標の達成に必要な授業を行うことができている。また、次年度に向けて反省を残している。
	③ 児童生徒一人一人のコミュニケーション能力を高め、自ら表現し伝え合う力を育成する指導を行う。	③ ICT機器などを積極的に活用して、自ら発信する力や周囲に働き掛けて関わろうとする力を身に付けさせる。 交流及び共同学習を計画的に行い、学習場面や人と関わる場面を広げる。	A	○ 行きたい場所やしたことなどをカードを使って伝えることができるようになった。アプリを活用して、報告や要望を伝えることができるようになった。 ○ 居住地校交流学習は昨年度並みに取り組むことができた。
	④ 壱岐市において特別支援教育の周知及びセンター的機能の充実を図る。	④ 教育相談などを積極的に行ったり、各学校へ講師として研修会を行ったりするなどし、特別支援教育の周知を図る。 市教育委員会を中心としたネットワーク作りを行い、センター的機能の充実を図る。	B	● 相談件数は5件で、令和4年度（7件）よりも減少している。相談は2学期以降に集中しており、コロナ5類以降を待ったことが原因ではないかと考える。次年度は周知したい。 ○ 10月に行われた壱岐地区特別支援教育連絡協議会では、本校職員が講師を務め、壱岐市のコーディネーターの指導力向上に貢献したと考えられる。

※評価基準　A：達成できた　B：ほぼ達成できた　C：あまり達成できなかった　D：達成できなかった

	重点目標	具体的方策	評価	成果（○）と課題（●）
高等部	① 学校生活全般を通して「明るく健康で笑顔いっぱいの子ども」「思いやりのある心豊かな子ども」を育成する。	① 生徒、職員が気持ちの良い挨拶を励行し、コミュニケーション能力の向上を図る。また、学習活動や学校行事等を通じて、生徒同士がお互いの良さを認め合い、自己の持ち味や良さに気付かせ、自己肯定感を高められるようにする。	A	○ 生徒会が行っている挨拶運動を毎朝実施し、本校生徒や保護者だけでなく、設置校の生徒にも自然に挨拶ができるようになってきた。 ○ 他者との関わり方に課題がある生徒に対して、各生徒がその特性を認め、自分なりの関わり方ができるようになった。
	② 望ましい社会参加を目指し、生徒一人一人が卒業後の生活に必要な基礎的な知識や技能、態度を理解し、自己の課題の把握及び改善を通して、自己選択・自己決定による進路の実現を目指す。	② 現場実習や作業学習等を通じて、生徒、保護者が卒業後の生活について、自ら考え、明確なイメージがもてる進路指導を行うとともに、担任、進路指導部が連携し、適切な進路選択・決定ができるようにする。	A	○ 就労体験実習や進路面談を通じて、新入生の保護者が生徒の卒業後のイメージをもつことができてきた。 ○ 卒業生については、自己の特性や能力にあった実習先を選択し、希望する事業所等への進路が決定した。
	③ 学習指導要領の趣旨に基づき教科別の学習及び各教科等を合わせた指導の学習内容を整理し、充実した学習を実践する。	各教科等の目標や学習内容を意識した指導を行う。併せて単元計画・評価シートを活用した授業計画及び振り返りを行い、令和6年度の教育課程編成を行う。	A	○ 各教科において、目標や学習内容を意識ながら単元計画を立て、生徒が生き生きと学ぶ授業を行うことができた。 ○ 次年度に向け、５０分授業への移行を含め、教育課程全体の整理を行うことができた。次年度、検証しながらより良い教育課程編成を行っていきたい。
	④ 障害の状態や特性等に応じたICT機器やアプリを選定し、生徒が自らICT機器を活用して学習上又は生活上の困難を軽減・改善できる環境設定を行う。	ICTを取り入れた授業を積極的に行い、成果物の共有や環境整備を見直す。またタブレットPCを持ち帰る際の活用方法等を検討し、家庭学習の充実を図る。	B	○ 助成金等を有効に活用し、ICT環境を充実させることができた。 ○ 普段の授業でタブレットPCを活用しており、特に調べ学習やプレゼンテーションにおいては生徒の操作技術が向上した。 ● タブレットPCの持ち帰りについては、ルールや手続き等を検討し、生徒や保護者に説明したが、実際に持ち帰って家庭学習で活用するには至っていない。

※評価基準　A:達成できた　B:ほぼ達成できた　C:あまり達成できなかった　D:達成できなかった

	重点目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(●)
教務部	① 教育計画の企画立案及び連絡調整を円滑に行い、適切な教育目標の達成に努める。	① 学校教育目標を達成させるため、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいて指導・評価を行い、次年度の教育課程編成を円滑に行う。 他の分掌部や設置校等と調整を行いながら、授業を円滑に行うことができるようにする。	B	○ 三観点を意識した年間指導計画を作成した上で、個別の指導計画においても三観点で指導・評価を行うことができた。また、今年度、指導・評価をしたことを次年度の年間指導指導計画の作成に生かすことができた。 ○ 設置校と合同で開催する行事では、設置校教務主任及び体育主任等との連絡調整を行えたことで、円滑に調整ができた。
	② 教育課程の改善に向けた原案作成、教育課程委員会の適切な運営を図る。	② 教育課程編成の手順や仕組みを視覚化し、いつ、誰が、何をするのか等、全教職員が教育課程編成の手順を理解し、取り組めるようにする。 小中高合同で教科部会を設定し、各教科の課題について検討、改善を行い、小中高の系統性が図られた教育課程の編成につなげる。	B	○ 教科会、職員会議などを通して、教育課程編成のスケジュールを提示し、共通理解することができた。また、年間計画を事前に提示したり、検討事項や資料を提示したりすることで計画的かつ効率的に教育課程編成を進めることができた。 ○ 小中高合同での教科会では、系統性のある教科会(年間指導計画、教科書などについて)を実施できた。
	③ 教務事務を適切に処理し、学校の円滑な運営を図る。	③ 教科用図書の選定と給与が円滑にいくように、いつ、誰が、何をするかを職員同士で確認しながら業務を進めていく。 文書・個人ファイル及び教材、教具、消耗品等を定期的にチェックする時期を決める。また、職員同士で声を掛け合いながら紛失などがないようチェックを行う。	B	○ 教科用図書に関する提出日を基にスケジュールを立てることで、いつまでに、何を県教育委員会などに提出するかを担当間で確認しながら進め、提出期限内に必要な書類を出すことができた。 ○ 教科書担当の職員を中心に、教科書検討会、教科書選定委員会を実施し、学校全体で共通理解しながら進めることができた。 ○ 週1回、個人ファイルをチェックをすることで紛失がないように努めることができた。 ○ 月1回は、担当職員を中心に消耗品等をチェックすることで、滞りなく業務を進めことができた。
	④ 情報教育の推進及び情報機器の管理やセキュリティの保守を行うとともに、個人情報の取り扱いや危機管理についての職員の周知や研修を行う。	④ 情報教育の推進及び情報機器の管理について、定期的な保守点検を行うこととともに、様々な場面(授業、研修会など)で活用を促す。 個人情報の取り扱いや危機管理について、情報セキュリティ研修会やICT研修会などを通して、職員への啓発活動を行う。	B	○ 毎日、児童生徒下校後にタブレットPCの数を確認することができた。 ○ 年度当初に情報セキュリティ研修会を行い、情報セキュリティマニュアルを主に用いて個人情報の取り扱いや危機管理を周知した。 ● タブレットPC持ち帰りの情報教育について、高等部の保険が非対象になり、対応が遅れ、2学期末に自己責任で持ち帰りを推奨することになった。

※評価基準　A:達成できた　B:ほぼ達成できた　C:あまり達成できなかった　D:達成できなかった

	重点目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(●)
教務部	⑤ 視聴覚機器・機材の整備に努め、児童生徒が学びやすく、教師が授業を行いやすい環境を作る。	⑤ 視聴覚機器、機材の保管について管理シールの有無や場所を見直し、児童生徒、教師が使用しやすいようにする。 機器の不具合がないか定期的に確認する。不具合があったときには、早急に対応する。	B	○ 教育用PCのOSが校内LAN接続不可になったことに伴い、事務室と協力して新しいPCへの移行をスムーズにできた。 ○ 高等部では、タブレットPC保管庫を各教室に導入し、一時的な移動時の保管場所として運用している。
研究・自立活動部	① 教育実践上の課題を研究内容として取り上げ、職員一人一人の専門性の向上と見識を深めるために、校内研究、授業研究、事例研究、現職教育、人権教育(同和教育を含む)研修等の企画及び推進を行う。	①「単元計画・評価シート」を用い、授業改善やカリキュラム・マネジメントの確立を目指した校内研究の推進を行う。 職員一人一人の専門性の向上を図るために、現職教育、人権教育(同和教育を含む)研修等の企画及び推進を行う。	A	○ 概ね計画通りに進行し、各学部での単元計画を作成や評価を行い、完成させることができている。 ○ 今年度、現職教育の整理をすることができた。研修など連絡・調整を滞りなく進めることができた。
	② 児童生徒の発達や障害特性に即した、効果的な自立活動の指導の充実に努める。	②「自立活動の指導に係る力量形成チェックシート」の分析に基づいて、職員の課題に即した学習会を行う。 自立活動の目標検討(確認)会を実施し、児童生徒の実態に即した指導の充実や、職員間で共通理解を図る。	A	○ 8月に学習会を行った。盈科小学校の職員の参加もあり、充実した研修になった。 ○ 各クラス単位で目標検討を行い、多くの職員間で共通理解することができた。
	③ 教育センター講座をはじめ、各種校外の研究会等の案内を行い、積極的な参加を呼び掛ける。	③ センター講座について、各期の講座内容を周知しながら、受講者を募る。 書架の文献等について、積極的な活用がなされるように、紹介等を行う。	B	○ ニュースメールを通して、職員に知らせることができた。それぞれ研修するに参加できた。 ● 新しく本を購入する予定だが、積極的に活用できるような活動はできなかった。
	④ 長崎県特別支援教育研究会に関連した業務を行う。	④ 長崎県特別支援研究大会への加入の周知や会費の取りまとめ、研究大会への参加について事務局との連絡・調整を行う。	A	○ 加入周知及び会費の取りまとめ、研究大会への参加など、適切に対応することができた。
	⑤ 文化活動の啓発や図書等の整備に努める。	⑤ 校内の掲示場所の割り当てや計画を提示する。学習の様子や作品を展示できるようにする。 掲示や呼び掛け等を行い、文化的行事や各種作品展など参加を促す。	A	○ 適切な期間、適切な場所に展示できた。 ○ 美術の作品や部活など、たくさんの文化行事や作品展に参加できた。
健康生活部	① 児童生徒が安心安全に学習に取り組むことができるようにする。	① 登下校時の児童生徒の安全について家庭や地域と連絡を密にする。	B	○ 児童生徒の家庭での様子や学校での様子を、送迎時や連絡帳で密に連絡したことで、大きな事故やトラブルはなかった。 ○ 捜索訓練や不審者訓練では、昨年の反省を生かし、取り組むことができた。

※評価基準　A:達成できた　B:ほぼ達成できた　C:あまり達成できなかった　D:達成できなかった

	重点目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(●)
健康生活部	① 児童生徒が安心安全に学習に取り組むことができるようにする。	① 各種訓練(火災、不審者、地震、捜索)の内容を充実させ、危機管理体制を整備する。 盈科小学校、壱岐高校と連携を図り、緊急時への対応を迅速かつ円滑に行う。	B	● 職員対象の訓練については、日程や内容など検討が必要なものもあった。 ● 来年度の危機管理マニュアルの作成に向けて、職員や警察の意見を踏まえ、より良いものにしていく。 ○ 合同で避難訓練を行う中で、反省等を共有したり、実施についての態度決定の話し合いなどをしたりすることができた。 ○ 日頃から挨拶をしたり、交流を行ったりすることで、児童生徒の特性について共有することができた。
	② 児童生徒が、明るく健康で笑顔いっぱいに学校生活を送ることができるようにする。	② 小中学部では挨拶や集会活　動、高等部では生徒会を中心とした委員会活動を行い、児童生徒相互の親睦を図る。また小中高交流会を実施して、学部相互の親睦も図ることができるようにする。 長期休業中の生活についての文書を配付し、保護者への啓発を行うとともに家庭との連携を図る。 学校生活アンケートをはじめとした各種アンケートを実施し、児童生徒の問題等を把握する。	A	○ 小中学部では、日頃の挨拶や集会、行事等を通し、児童生徒の親睦を深めることができた。高等部では、生徒会役員を中心に毎日挨拶運動を行い、生徒同士良好な関係を築けている。 ○ 小中高交流会では、児童生徒が一緒にゲームなどを行う直接的な交流と、高等部のバザーに中学部が買い物にくる間接的な交流を実施し、交流を深めることができた。 ● 小中高交流会について、児童生徒の学びや職員の業務負担の軽減など踏まえて、実施回数や内容について今後検討が必要である。 ○ 壱岐地区学警連の生活指導に関する文書を基に、長期休業についての文書を配付し、保護者への啓発を行うことができた。夏季休業中は、事故やトラブルなどはなかった。 ○ 1学期末、2学期末に学校生活アンケートを生徒対象に実施し、気になる回答をした生徒には、聞き取りを行い、職員に情報共有し対応したことで、大きな問題になることはなかった。
	③ 個々の能力に応じた学習内容を設定し、運動習慣を養うとともに総合的な体力の向上を目指す。	③ 体育科／保健体育の時間(朝の運動含む)において運動機会・時間を十分確保する。 運動会、体育祭、マラソン大会などの体育的行事を通して、児童生徒が運動に親しめるよう、計画や内容を工夫する。 様々な運動領域を学習させることで運動やスポーツの楽しさを知り、運動習慣が身に付くようにする。	A	○ 保健体育や朝の運動で、様々な運動を取り入れながら、運動の機会を十分確保できた。 ○ 小中学部の運動会は、設置校と協力しながら進めていくことができた。実態に合わせて参加種目や内容を考えることで、児童生徒が意欲的に取り組むことができた。 ● 高等部の体育祭は、実施時期などを設置校と十分に話し合い計画をする必要性があると感じた。マラソン大会は、個人の走力に応じた内容を検討している。 ○ 学習指導要領に記載されている運動領域を満たした教育課程の下、様々な運動を学習した。運動が苦手だと感じている生徒もそれぞれの目標をもち、前向きに取り組む様子が見られた。
	④ 健康や衛生に関する意識を高めるとともに、保健指導を充実させる。	④ 定期健診等で個々の児童生徒の健康上の課題を職員で 共有し、学校全体で改善に向けて取り組む体制を整える。	A	○ 定期健康診断を滞りなく実施することができた。異常等がみられた児童生徒には通院を促すなど、児童生徒の健康上の課題については、各学部で共通理解を図れた。

※評価基準　A:達成できた　B:ほぼ達成できた　C:あまり達成できなかった　D:達成できなかった

	重点目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(●)
健康生活部	④ 健康や衛生に関する意識を高めるとともに、保健指導を充実させる。	④ 感染症等の最新の情報収集を行い、組織的で迅速・適切な対応を行う。 保健領域の集会や行事を充実させ、健康・衛生に関する知識や技能を身に付けさせる。	A	県内、市内の感染症発生状況を職員室に掲示した。対応が必要な場合は、換気を行うなど、感染防止に努めることができた。 ○ 集会や保健体育の授業で取り上げた手洗い、歯みがきなど、生活の中でも継続して指導することができた。 ● 昼食前後の日常生活指導の時間に各担任が行っている衛生に関する指導について、養護教諭による情報提供等の働き掛けが不足していた。
	⑤ 食に関する指導の全体計画を基に、各学部に応じた食育を充実させる。	⑤ 各段階に応じた年間指導計画を作成する。	A	○ 食に関する全体指導計画を作成し、各学部、段階に応じた指導をすることができた。 ○ 小中学部では、壱岐市の栄養教諭に来ていただき、給食集会を実施し、給食や栄養バランスについて指導していただいた。その後、各学級や学部において、食育指導を行うことができた。高等部では、特にマナーに力を入れ、指導を行った。
進路指導部	① 児童生徒の障害の状態や特性、能力、性格等を把握し、適性の発見と伸長に努め、個々のニーズや発達段階に応じて早期からの進路指導の推進に当たる。	① 職業科や作業学習、進路学習を中心に児童生徒の働く力の実態を把握する。 進路学習を計画的に実施し、児童生徒の自己理解、自己選択の充実を図る。 卒業後の進路に関する壱岐市内外の情報を適切に提供する。 中学部保護者にも高等部の実習報告会の案内を出したり、高等部1年生が高等部3年生の就労体験実習の見学を行ったりなど、保護者、生徒ともに将来を見据えた進路の情報提供や指導に当たる。	A	○ 実習や作業学習などを通して、児童生徒の得意なことや不得意なこと、社会人に向けての課題等を把握し、進路指導につなげることができた。 ○「自分の得意なこと、不得意なこと」「今後取り組むこと」など、学習内容に応じて児童生徒が自己理解を深めたり、自己選択する場面を作ることができた。 ○ 壱岐市外の情報について、福岡県や長崎県内の情報収集に努めることができた。今後も継続して行う。 ○ 小中学部保護者に高等部の実習報告会の案内を出して、情報提供をすることができた。次年度も、高等部と連携して行う。
	② 児童生徒の将来の社会的・職業的自立を目指すために、進路学習や関係機関との連携の在り方を整理・再考し、今後の就労支援を充実させる。	② 進路希望調査や面談で児童生徒や保護者の考えを把握し、進路希望を共通理解する。 卒業生の就職先から就職後の様子など情報を提供していただき、在校生の進路指導に役立てる。 障害福祉サービス事業所、ハローワークなどと情報を共有し、適切な進路指導体制の整備に努める。	A	○ 進路希望調査を活用して、進路に関する希望や疑問を各家庭からうかがうことができた。 ○ 施設見学や同窓会を通して、卒業生の様子を把握し、在校生の進路指導の参考にすることができた。 ○ 事業所、ハローワークと連携して、情報を共有し、適切に進路指導に当たることができた。

※評価基準　A:達成できた　B:ほぼ達成できた　C:あまり達成できなかった　D:達成できなかった

	重点目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(●)
教育支援部	① 本校児童生徒の教育支援の充実・改善を図るとともに、地域に開かれた学校づくりに取り組む。	① 個別の教育支援計画の円滑な運用に努めるとともに、支援会議等で保護者や関係機関との連携を図る。 設置校や近隣の小・中学校、高等学校との交流及び共同学習を計画、実施する。 学校リーフレットや学校公開、学校見学会等で本校の教育活動の啓発を図る。	A	○ 保護者、関係機関と連携しながら、年間スケジュールに沿って個別の教育支援計画を作成し、支援に当たることができた。 ○ 今年度は、コロナの影響を受けることなく計画どおりに交流及び共同学習を実施することができた。 ○ リーフレットを学校公開、学校見学等に活用し、本校の教育活動の啓発を図ることができた。
	② 地域の学校等への教育支援を行い、特別支援学校としてセンター的役割や機能の充実を図る。	② 教育相談を通して、地域の学校や園の幼児、児童、生徒の支援を行う。 壱岐地区特別支援教育コーディネーター研修会へ参加し、各校(園)の校内支援体制の充実を図る。	B	○ 市内の小学校の教育相談を受けた。先生方と授業観察後に指導、支援方法などについて検討した。どれも特別支援学級の措置変更を望んでいる案件であった。 ● 小学校において件数は、減少しているものの自校での体制や取り組みが深まっているともいえる。 ○ 研修会に参加をすることができてはいるが時間の関係上、十分に話を聞くことが難しい状況である。研修会の際に本校からの紹介やコーディネータ間で情報交換を行う機会を設けてほしいと管理職を通じて、市教にお願いをしている。個別の教育支援計画の改定に向けて改善点をまとめることができた。
事務部	① 本校の事務部と連携して業務を行う。	① 学校間メールや電話などを用い、本校の各担当者と、日頃よりきめ細かに連絡・相談を行い、本校と分校間における画一的な事務処理を行う。また、物理的な距離もあるため、何事においても迅速な事務の執行を行う。 本校のみならず、壱岐高校事務室とも連携をとることで、一つの組織として壱岐分校の教育環境の整備・充実を実現する。	A	○ 今年度は、本校事務室における産休等による担当者の変更が多かったため、逐一電話にて状況報告・情報共有を行い、事務処理の格差が発生しないよう努めた。 ○ 環境整備においては、壱岐高校の事務現業職員に修繕を行ってもらうなど、速やかに的確な対処をすることができた。 また、予算の面からも、壱岐高校と歩調を合わせ、必要な消耗品や備品等を迅速に準備できた。 ● 上記のとおり、壱岐高校との連携は十分にとれたが、一部の事務分掌において事務処理の遅れが発生し、先生方にご迷惑をおかけしている部分がある。予算との兼ね合いもあるため、事務室内が一つのチームとして仕事を遂行できるよう、より声を掛け合うことが必要である。